View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

【審査論文】

施設実習における学び
―実習経過にみる反省的思考―

伊瀬玲奈

Learning through In-facility Training
Reflective Thinking Observed in the Process of Practical Training

Reina ISE

要旨

反省的思考を「実習生自身の保育行為を振り返り、出来なかったことを、次の機会には出来るようになりたいと願うこと、実習生自身の保育行為による成果」と定義し、施設実習日誌の記述を分析した。①いずれの学生の日誌にも、「実習生自身の保育行為の振り返り」、「次の保育への視点」、また「実習生自身の保育行為による成果」と思われる記述がみられた。②実習生自身の保育行為を振り返ることから次の保育へ視点を持つことに加えて、職員や児童の姿から、「次の保育行為への視点」を持っていることが窺われた。③実習日誌に記述されている反省的思考は、「施設・職務の理解」と「実習生と児童のかかわり」に分けられた。④実習生の保育行為は「希望する段階」「実践する段階」「改善点に気づく段階」「成果を感じる段階」「質的向上を望む段階」「意義を理解する段階」の6つに分類することができた。⑤実習生の保育行為に関する記述は、経過は様々であるが行為の前に児童の実態を把握しており、その上で実習生自身の行為について考えたり、実践していることがわかった。⑥実習生が反省的思考プロセスを持っている可能性が示唆された一方で、実習生の解釈や記述が保育内容として必ずしも適切でないものがみられた。

学外実習の学びを深めるためには、実習後にすべての実習体験を振り返り、捉え直す機会の必要性が感じられた。

キーワード：施設実習　反省的思考　保育行為
in-facility training, reflective thinking, childcare activities

1．はじめに

施設実習についてはこれまでも多くの研究が行われてきた。学生に対する意識調査[1, 2]では、施設実習を経験することで、利用者や施設保育士の仕事、活動に対する理解が深まることについて報告されている。また、施設実習の現状や課題についての研究[3, 4, 5]では、施設実習の前にどういった科目を学ぶべきかといったカリキュラムに検討が必要なことや、パターナリズムに陥らない柔軟な指導体制の確立などが求められることが報告されている。また、佐伯[6]は、施設実習を経ることで、学生は「対人援助の重要性や困難さ」、「対人援助の知識や技術」などを学んでいると記している。反省的実践・反省的思考を視点とした実習に関する研究[7, 8, 9]では、実習生が反省的思考を行う存在であること、深化に至るかは学生個人の思考特性など多

和洋女子大学 人文社会科学系 教育学研究室

くの要因が影響していると思われることについて述べられている。

施設実習に関する研究において、実習日誌そのものを分析した研究、さらに反省的思考から学生の学びを検討した研究は多くない。

学外実習では、実習施設で行われていることや職員の言動に目を向けて、観察し職員の言動を模倣しながら児童とかかわっている。特に養育の場である施設においては、同じ行為が毎日繰り返されることが多い。実習の学びが表層的理解や保育行為の模倣で終えることなく、自らの保育を振り返り、最終的には自身の行為が児童にとってどのような意義があるのか考えたり、気づいたりすることが、反省的実践家に繋がる実習ではないかと考えた。本稿では、施設実習日誌から反省的思考に該当する記述を抽出し、さらに保育行為を分析することで、学びの経過を明らかにしたい。

２．目的

学生が施設実習時に記述した日誌の分析を行い、反省的思考を視点に実習の学びを明らかにする。

本稿における反省的思考を「実習生自身の保育行為を振り返り（保育行為の振り返り）、出来なかったことを、次の機会には出来るようになりたいと願うこと（次の保育への視点）、実習生自身の保育行為による成果（成果）」と定義する。

３．方法

(1) 収集

保育士養成校K大学において、2012年9月から11月にはじめての施設実習（11日間）を行った学生に調査依頼を行った。調査への協力は個人の自由意志に基づくこと、個人名、実習施設名は特定されないこと、個人情報の保護に関する配慮、調査結果の公表範囲を伝え、同意が得られた３名から提出された施設実習日誌の「一日の振り返り」欄に記述された文章を用いた。

(2) 分析対象

３名の学生の「K大学施設実習日誌」（以下、実習日誌）の一部「一日の振り返り」33枚を分析対象とした。３名の学生は別々の児童養護施設で実習を行っている。各施設での配属は、学生Aは「幼児」グループ、学生B、Cは「幼児～高校生」グループで、初日から最終日まで同じグループでの実習を行っている。

(3) 分析方法

実習日誌「一日の振り返り」の記述内容から、「実習生自身の保育行為の振り返り」及び「次の保育への視点」、「実習生自身の保育行為による成果」に該当する文章を抽出し、出現傾向と内容の分類をした。その後、反省的思考と保育行為の関連について分析を行った。

４．結果と考察

(1) 反省的思考の出現傾向

分析対象の「１日の振り返り」33枚の内容から、「実習生自身の保育行為の振り返り」、「次の保育への視点」、また「実習生自身の保育行為による成果」を感じていると思われる記述の出現をまとめた（表１）。

表１　反省的思考の出現（時系列）

	学生A			学生B			学生C		
	振り返り	次への視点	成果	振り返り	次への視点	成果	振り返り	次への視点	成果
１日目		●	●		●		●	●	
２日目	●	●	●	●		●	●	●	
３日目	●	●	●		●			●	●
４日目	●	●	●	●	●		●	●	●
５日目	●	●		●	●		●	●	
６日目	●	●			●	●	●	●	
７日目	●	●	●		●	●	●	●	●
８日目	●	●	●		●	●	●	●	●
９日目	●	●			●	●	●	●	●
10日目	●	●		●			●	●	●
11日目			●	●		●			●

いずれの学生も、おおむね毎日「次の保育への視点」を記述していた。実習生はその日一日で学ぶ視点を定めるために「日々の課題」や「実習生の目標」などを設定している。その日の出来事の理解にとどまらず、翌日以降の保育に繋げる記述が実習当初からみられることは保育の連続性を理解して実習に取り組んでいる好ましい傾向と考えられる。また、「実習生自身の保育行為の振り返り」が記されていない日に、「次の保育への視点」が記述されている日がどの学生にもみられた。これは、実習生自身の保育行為から次の保育への視点を持つことに加えて、「施設職員の保育行為」や「児童の姿」から、自身が次に同じ場面に遭遇した際の保育行為を想定しているためだと推測される。また、実習生自身の保育行為により「成果」を感じていると思われる記述は、どの学生にもみられるものの出現の時期に差がみられた。ここでいう「成果」とは、実習生が望んだ保育が実現された、実習生が望む児童の行為が見られたということではなく、自身の保育行為に対して実習生が「できた」と感じている記述である。いずれの学生も11日間の実習のうち、半数以上の日に「成果」の記述がみられた。

学生Ａ及び学生Ｂについては「一日の振り返り」欄に「実習生自身の保育行為の振り返り」、「次の保育への視点」、「成果」の３つが記述されている日があったが、学生Ｂは３つすべてが記述されている日がなかった。学生Ｂの記述は学生A、Cとは違った傾向があるように思われる。分析の対象とした「一日の振り返り」欄と共に「利用者の活動」「実習生の活動」欄からそれぞれの実習内容を確認したところ、学生Ｂは学生Ａ、Ｃと比較して子どもたちが幼稚園や学校に行っている間に、清掃や調理など家事を中心とした生活支援を行っている時間が多く、児童に直接かかわる場面が他の２名よりも少なかったのではないかと読み取ることができた。児童とかかわった記述がある日については、「実習生自身の保育行為の振り返り」、「次の保育への視点」、「成果」の内2項目記述されていることから、今回の調査範囲においては、児童とのかかわりの多寡が記述に影響しているのではないかと推測される。

(2) 施設実習における反省的思考の分類

分析対象の「１日の振り返り」33枚の内容から、「実習生自身の保育行為の振り返り」、「次の保育への視点」、また「実習生自身の保育行為による成果」に該当する記述を分類した（表２）。「実習生自身の保

育行為の振り返り」は、主語が実習生で「できなかった」「努力した」「戸惑った」など、自身の行為を振り返っている記述が含まれているものを分類した。「次の保育への視点」は、「心掛けていきたい」「出来るように頑張りたい」「していきたい」と実習生自身が今後行いたい保育行為が記述されているものを分類した。「実習生自身の保育行為の成果」は、実習生が自身の保育行為を振り返り、「できた」「できて嬉しい」「続けたい」など成果、達成を感じたり、継続を望んでいる記述が含まれている場合に分類した。

表２　施設実習における反省的思考の分類

項　　目	保育行為の振り返り	次の保育への視点	自身の保育行為に対する成果
施設・職務の理解	6	8	7
実習生と児童のかかわり	26	35	17

実習生が記述する反省的思考は、「施設・職務の理解」と「実習生と児童のかかわり」に分けられた。「職員と児童のかかわり」に関する記述もみられたが、分析の結果「勉強になった」「理解できた」など学びと結びついているものの、分析対象が少数だったこともあり、「実習生自身の保育行為の振り返り」と関連した記述はみられなかった。

(3) 実習生の保育行為の経過

施設実習での学びの経過を知るために、反省的思考と思われる記述から、実習生自身の保育行為に関することを抽出分類した（表３）。

表３　反省的思考に含まれる保育行為の分類

項　　目
保育行為を希望する段階
保育行為の実践する段階
保育行為の改善点に気づく段階
保育行為の成果を感じる段階
保育行為の質的向上を望む段階
保育行為の意義を理解する段階

その結果、①「保育行為を希望する段階」②「保育行為の実践する段階」③「保育行為の改善点に気づく段階」④「保育行為の成果を感じる段階」⑤「保育行為の質的向上を望む段階」⑥「保育行為の意義を理解する段階」まで６つに分類することができた。

(4) 保育行為と思考のプロセス

保育行為に関する記述の経過を分析した。その結果、表４の【児童への伝え方】のように①「保育行為を希望する段階」から⑥「保育行為の意義を理解する段階」まで経過することがある一方で、表５【児童の好ましい行動をすぐに誉める】のように途中の②「保育行為の実践する段階」から記述がはじまるケースも見られた。また、表６【児童とのかかわり】のように、①「保育行為を希望する段階」からはじまり③「保育行為の改善点に気づく段階」で実習が終了しているケースもあった。

実際の保育では、児童の実態、環境、保育士の働きかけなど様々な要因が絡み合い、（保育士自身の保

育行為に）成果を感じる場面はそう頻繁に訪れるものではない。児童にとってより良いというのはどういうことなのか、それに繋がる働きかけはどのようなものなのか、②「保育行為の実践する段階」③「保育行為の改善点に気づく段階」を繰り返すことも多い。漫然と毎日繰り返される保育行為を行うのではなく、「児童にとっての意味を考えながら実践する」、「行為の意義を考える」ということは、保育所など異なる種別の保育場面でも必要とされる汎用性のある視点だと考えられる。実際に施設実習を行う前は、保育士のイメージとして保育所保育士を思い浮かべる学生も多く、なぜ施設実習を行うのか理解に欠ける学生もいる。しかし、表２で示したように実習が始まると日誌の中に「施設・職務の理解」の記述が見られる。このことからも、施設での実習を実際に体験することにより「施設の役割」や「施設保育士」についての理解を学生なりに深めていると考えられる。今回分析対象とした学生は、「児童養護施設は、子どもたちが生活するための援助を行う所だと思っていました。しかし、子どもたちが生きて行くために自立できるよう必要な社会性を育てることも大切だと思いました。」、「幼稚園・保育所などと異なり、発達段階で考えるのではなく、１人ひとりの自立のためにその子にあった対応をしていました。」と、施設についての認識や幼稚園・保育所での実習とは異なることに気づいたような記述がみられた。実習事前指導においても、「反省的思考」のサイクルや保育実践は、実習先の種別を超えて必要なことであると伝えることで、学生の学びの意欲が高まるのではないかと思われる。

表４から表６では、始まりと終わりの段階に差はあるものの、いずれのケースも実習生自身の保育行為の前に児童の姿を記している。経過は様々であっても児童の実態を捉えたうえで、自身の保育行為について考えたり、実践したりしている。

学外実習を終えることが実習の終了ではなく、学びを繋げたり深めたりするためには実習後に、実習中に記述した記録を振り返り、捉え直す機会が必要ではないだろうか。学外実習での出来事と共に自身が書いたことを振り返ることで、理解を深めることができると考える。表６のように途中で実習を終えている場合も、事後指導の中で⑥「保育行為の意義を理解する段階」まで考えさせることにより、反省的思考のプロセスを経験させることができる。

実習段階から、自身の保育を振り返ったり、次の保育場面を想定したり、保育行為に成果を感じたりすることは、反省的思考、実践ができる保育士の養成に繋がると思われる。

表４　保育行為の経過【児童への伝え方】

項　　目	「一日の振り返り」の記述
保育行為を希望する段階	【1日目】今日よりも積極的に話し掛けてかかわりたいと思います。
保育行為の実践する段階	【2日目】こちらに来てほしい時など、（略）名前を言ってから話すように心掛けたので… 【2日目】興奮している時は（略）話を聞いてもらうことができなかったり、喧嘩の対応に困ってしまうことが多々ありました。
保育行為の改善点に気づく段階	【3日目】私の質問が漠然としていたのかもしれないと思い、次回から子どもの気持ちを読み取ってから話したいと思いました。
保育行為の成果を感じる段階	【4日目】対応があっていたのかわかりませんが、きちんと話すことは出来ました。
保育行為の質的向上を望む段階	【4日目】落ち着いて話せるよう今後も心掛けたいと思いました。
保育行為の意義を理解する段階	【11日目】きちんと説明することによって子どもの気持ちが変わるのだと感じました。

表５　保育行為の経過【児童の好ましい行動をすぐに誉める】

項　　目	「一日の振り返り」の記述
保育行為を希望する段階	記述なし
保育行為の実践する段階	【6日目】私は（略）誉めて感謝の気持ちを伝えた。
保育行為の改善点に気づく段階	【6日目】明日から誉めるということを意識し、子どもたちの良いところをたくさん見つけたいと思います。
保育行為の成果を感じる段階	【8日目】少しずつ誉めることができるようになってきました。
保育行為の質的向上を望む段階	【9日目】もっとたくさん誉められるようになって、子どもたちのやる気を出せるようになりたいと思いました。
保育行為の意義を理解する段階	【10日目】誉めることで、その子以外の周りにいる子にもお手本になるのだと改めて思いました。

表６　保育行為の経過【児童とのかかわり】

項　　目	「一日の振り返り」の記述
保育行為を希望する段階	【9日目】積極的にコミュニケーションを取っていきたいと思います。
保育行為の実践する段階	【10日目】自分なりに一人一人との関わりを見極め、それを元に声掛け等行いましたが、やはり見逃している場面や上手く流れを作れない事があり先生方の大変さを痛感しました。
保育行為の改善点に気づく段階	【10日目】メリハリのある指導や厳しさの中の優しさを見せるタイミングなどが本当に大切だということがわかりました。 【11日目】今までの子ども達との関わりを生かし積極的に声掛け等行いましたが、やはり全ては上手くいかず改めて自立支援の難しさを痛感しました。
保育行為の成果を感じる段階	記述なし
保育行為の質的向上を望む段階	記述なし
保育行為の意義を理解する段階	記述なし

養成校における事後指導のなかで考察させる事柄

５．おわりに

本稿の目的は反省的思考を視点に実習の学びを明らかにすることであった。施設実習日誌の記述から反省的思考の抽出、分類、保育行為の経過を分析した結果を以下にまとめる。①いずれの学生の日誌にも、「実習生自身の保育行為の振り返り」、「次の保育への視点」、また「実習生自身の保育行為による成果」と思われる記述がみられた。②実習生自身の保育行為を振り返ることから次の保育へ視点を持つことに加えて、職員や児童の姿から、「次の保育行為への視点」を持っていることが窺われた。③実習日誌に記述されている反省的思考は、「施設・職務の理解」と「実習生と児童のかかわり」に分けられた。④実習生の保育行為は「希望する段階」「実践する段階」「改善点に気づく段階」「成果を感じる段階」「質的向上を望む段階」「意義を理解する段階」の６つに分類することができた。⑤実習生の保育行為に関する記述は、経過は様々であるが、行為の前に児童の実態を把握しており、その上で実習生自身の行為について考え、実践していることがわかった。⑥実習生が反省的思考プロセスを持っている可能性が示唆された。

目的であった実習での学びについて、保育行為の経過を軸に検討した結果、実習生が反省的思考プロセスを持っている可能性が示唆された。

今後の課題について述べる。いずれの学生も11日間の実習のうち、半数以上の日に「実習生自身の保育行為により成果」を感じていると思われる記述がみられた。これは、分析対象とした学生がいずれも実

習初日から最終日まで同一グループで実習を行っていたことから、振り返りから、次の保育行為への視点が持ちやすく、成果が感じやすかったと考えられる。また、分析対象の学生は多種ある施設の中でも、児童養護施設での実習を行っている。実習期間中、配属されたグループが変わると思考プロセスにも当然影響はあると思われる。さらに、きわめて少数の学生の日誌からの検討であるため、個人の学びの経過の範疇であり、汎用性を有するものとは言い難い。今後、養成年限や実習先の種別、実習中の配属先変更など、異なる要素を持つ日誌を分析し、確証を高めることが今後の課題であろう。

引用文献

1 多田内幸子・重永茂，施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査．久留米信愛女学院短期大学紀要．2013，第36号，55-61

2 多田内幸子・重永茂，施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査．久留米信愛女学院短期大学紀要．2014，第37号，69-76

3 土谷由美子．保育実習に関する意識と現状について ― 学生アンケートを中心に ―．中国学園紀要．2007，6，167－171

4 小倉毅，土谷由美子．保育士養成課程における施設実習に関する課題 ― アンケート調査からの一考察 ―．中国学園紀要．2009，8，77-87

5 石山貴方章，安部考，田中誠．保育士養成機関における「施設実習」の現状と課題（Ⅱ）―実習事後指導を通した「自己評価」と「気づき」に関する分析から―．九州ルーテル学院大学紀要visio : research reports．2010，40，59-72

6 佐伯知子．施設実習における学生の「学び」―実習感想文より―．大阪総合保育大学紀要．2008，第3号，169-178

7 小泉裕子，田爪宏二．保育者アイデンティティの形成に関する研究―実習生教育と現職教育の連続性―実習生に見る反省的実践の検証．鎌倉女子大学学術研究所報．2006，第6号，91-95

8 小泉裕子，田爪宏二．保育者アイデンティティの形成に関する研究（実習生に見る反省的実践の検証）― 日本とアメリカの保育者モデルが及ぼすアイデンティティ形成要因の比較 ―．鎌倉女子大学学術研究所報．2007，第７号，75-86

9 野尻裕子，栗原泰子．幼稚園教育実習における反省的思考について ― 実習日誌に記述した内容から ―．川村学園女子大学研究紀要．2006，第17巻，第2号，23-31

伊瀬　玲奈（和洋女子大学 人文社会科学系 助教）

（2014年11月11日受付）